

外部人材はどうやって 地域づくりに寄与するか？

地域資源マネジメント学科
農山漁村マネジメントコース

えひめ地域活力創造センターの事業と連携し、
学生が「集落活性化意識醸成支援事業」に携わる。

地区住民と学生が一緒になって地区を知り、
具体的な活動を計画・実践する単年度事業。

2022年度の実施地区

- 大洲市長浜
- 久万高原町柳井川
- 四国中央市関川

学生は地区ごとにチームを編成し、個々に活動を進めた。

大洲市 長浜

浦林陽菜、北村歩乃梨、久津那彩華、藤原萌、
越智大翔、北原瑠夏、徳永晴輝、丸田あかり、柳原瑞希

地区紹介

- ▶ 2005年(平成17年) 大洲市の一部となった。
- ▶ 肱川河口に位置し、平地が乏しいため埋め立てによって工業団地等を確保している。
- ▶ 面積:74.79km²
- ▶ 人口:9,208人
- ▶ 肱川河口にかかる日本最古の道路開閉橋（長浜大橋）
- ▶ 坂本龍馬の足跡（富屋金兵衛邸跡）

長浜高校について

水族館



週末には、家族連れが多く来られる。
数多くの魚が飼育されており、楽しめるような配置になっている

年間来場者約1万人

互いに協力しあう存在



長浜地区

地域おこしの
ための企画を
実行している

肱川あらしについて

10月頃から翌年の3月頃まで、晴天の日には冷気に霧を伴った「肱川あらし」と呼ばれる強風が発生します！



- ▶ 肱川あらしとは、晴れた日の朝、上流の大洲盆地で涵養された冷気が霧を伴って肱川沿いを一気に流れ出すという珍しい現象です。その強風は可動橋として知られる長浜大橋を吹き抜け、大規模な時には霧は沖合い数キロに達し、風速は長浜大橋付近において10m以上が観測されます。河口近くの小高い山の上には「肱川あらし展望公園」があり、その絶景を眺めることができます。霧が町をのみ込み、うねりながら海へと扇状に広がる肱川あらしの様子は、幻想的で息をのむ美しさ



長浜商店街について

特徴

- ・ 国道378号と大橋を結ぶ主要通り
- ・ 全長 約500m
- ・ 明治から昭和にかけて栄えたが、現在はシャッター街となりつつある
- ・ 長浜名物「志ぐれ」の販売店がある

取り組み

「赤橋自遊空間」

フリマやライブなど出店者が自由に使うことのできるスペースを提供するイベント



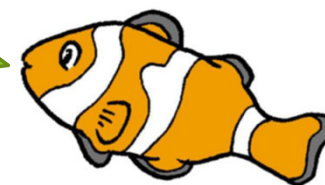
今後の展望

商店街へのガラス戸アート

- ・ 長浜の商店街にはシャッターでは無く、ガラス戸が多い
→ ガラス戸を使ってアートをつくろう
- ・ 長浜高校とのコラボ
→ 水族館にいる魚のシールやイラスト
→ 長浜高校の生徒へのイラスト等の募集



来街者に第2の水族館として
楽しんでいただきたい！



久万高原町 柳井川

近藤嘉哉、仙波晃太郎、平野雄己、奥田杏奈、石川凌羽、
久保雪奈、岩本真緒、内山洸士郎、谷脇理玖、西岡智紀、河内昴星

柳井川地区

久万高原町

面積: 583.7km²

人口: 7420人

高齢化率: 49%



【資料1】コトバンク

柳井川地区(旧柳谷村)

面積: 126.5km²

人口: 272人

高齢化率: 66.2%

(2022年度)

【参考文献】愛媛県、柳井川地域づくり協議会



【資料2】久万高原町ふるさと創生課

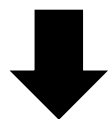
これまでの活動

前期(3回生)

①山の恵みプロジェクト(農林水産省事業)

(8~10月)

②フィールドワーク



後期(2・3回生)

①フィールドワーク

②タウンミーティング

③清和寮活用プロジェクト



【資料3】

山の恵みプロジェクト運営事務局



今後

①「清和寮プレオープンイベント」(年度明け)
…餅つき・先行宿泊・伝統食紹介等

②準住民制度の検討
→外部への発信強化
→継続的な関わり

③住民の“生き様”を追う調査
=個性豊かな方が多い

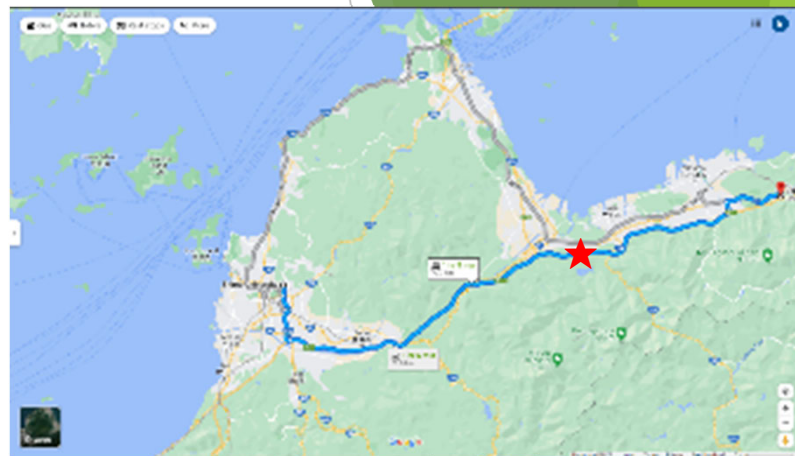


四国中央市 関川

小原颯、小泉礼、渡邊美理、南條翔栄、友宗龍希、渡部修平、
越智渚、寺田大翔、鍋井健弘、旗町望未、石黒佑樹

関川地区の概要

- ▶ 愛媛県四国中央市の最西端に位置
- ▶ 松山から車で約1時間
- ▶ 人口：2615人（2022年4月現在）
- ▶ 高齢化率：41.2%
- ▶ 傾斜地が多い地区
- ▶ 主な特産物：関川米、里芋（伊予美人）、赤石五葉松（盆栽）



関川地区の概要

- ▶ 2021年から「**みらいの関川を考える会**」という団体を発足
- ▶ アンケートの実施、移動スーパーのルート作成など多くの活動を実施

→積極的に活動を行っている



これまでの活動

- ▶ 10月19日 オンラインで関川地区の方々と意見交換
- ▶ 11月7日 関川地区で小学生のお子さんを子育てされている方（125人）へのアンケート調査を実施
- ▶ 11月23日 現地で開催されていた「関川マルシェ」でインタビュー調査
- ▶ 12月4日 ソーシャルビジネスプランコンテストの発表を拝見
- ▶ 12月21日 アンケート・インタビュー調査の結果と分析を現地の方々へ報告
- ▶ 2月1日 現地の方へSNSの使い方を伝える(Twitter、Instagram、ホームページ等)

関川マルシェの様子



SNSの使い方を伝えました！

今後の展望

- ▶ 2月中旬以降は住民の方々とともに、川の活用方法を検討
→子供が遊べたり、憩いの場にしたりすることはできないか、
何から始めたらいいのかを話し合いたい。
- ▶ 地域活動施設の建設と居住人口を増やしたい。
→少子高齢化の問題について。地域の方々からも課題として
挙がっていたので、ここは重点的に意見を交わしていきたい。
- ▶ 関川マルシェで他地区の産品を出店したい。
- ▶ 里芋ラーメンの出店！？



関川の様子

まとめ

▶ 外部人材による活動推進

1年では期間が短すぎる

→ **きっかけづくり**にはなるが、具体的な活動はこれから

「地域にいない世代が入ってきてくれて嬉しい」

「珍しい野菜をきっかけに交流ができた」 など

→ 具体的な活動は**2年目からが勝負**！？

▶ これからと今後・・・授業・事業の枠を越えて交流が展開

事例の学会報告

学生が自主的に訪問（マルシェ、川遊び、宿泊等）

学生を核に地区間の交流の促進（今は地区間のつながりがない）

奥松瀬川の事例を学会報告
アジア農業経済学会にて
（日本農業経済学会と共催）

ご清聴ありがとうございました。